

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370202230		
法人名	医療法人福寿会		
事業所名	グループホームうらら		
所在地	倉敷市茶屋町1245-3		
自己評価作成日	令和3年8月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370202230-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和3年8月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活機能向上の為、個別で週に1回以上リハビリを行っている。協力医、ケアマネージャーで実施内容を決め、介護職員が中心となり技能実習生を含め一人ひとりに合わせたリハビリを実施している。

コロナ禍で外出支援はできないがご家族からの協力により、密にならないよう時間配分や人数に配慮し、随時面会を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長引くコロナ禍で、利用者・職員の生活にも制約が多いが、職員間で話し合い、事業所内での季節行事・イベント・料理レクリエーション活動を充実させるように取り組んでいる。利用者と共に行う食事やおやつ作りは、大切な日課の一つとして捉え、利用者の張り合いや喜びを引き出している。管理者は職員一人ひとりに「この人の為に何をしたいか」と問いかけ、「温かくやさしい笑顔のケア」に繋げている。また、職員の思いを把握するよう努め、モチベーションを高め、やりがいのある職場環境作りに取り組んでいる。有給取得を積極的に促し、働きやすい就業環境の整備にも努めている。6月に管理者が交代し、家族とのやり取りはほぼ電話だけなので、これまで以上に家族との関りを模索している。家族との信頼関係を深めるため、事業所の実情報告の充実、「うららだより」の内容検討等を計画している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケアに困った際には、理念に立ち返ってケア方針を立てている	職員で意見を出し合い決めた「うらら」独自の指針があり、目につく場所に掲示している。日々の支援が利用者の幸せに繋がっているかどうか自己点検し、改善を図りながら取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染対策の為、100歳体操等の出入りはR2年2月から中止している。	隣接の空きスペースを活用して、地域との交流が図られていたが、現在コロナ禍で使用は控えている。花壇の管理や草取り等のボランティアの訪問は継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の時に、ホーム内での認知症ケアに対する取り組みの成功例や失敗例の実例を紹介して認知症についての知識を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	高齢者虐待防止委員会、不適切ケアへの取り組みの議事録には大変感心を持っていただいております。認知症介護の大変さについて共感して頂いたり、ご意見を頂戴し、職員の励みになっています。	高齢者支援センター職員、民生委員、町内会長、近隣のグループホーム等、運営推進会議参加メンバーに書面で報告している。高齢者虐待(身体拘束)防止委員会の議事録、職員研修会や不適切ケアに関する職員意見の報告書も添付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ感染対策にて運営推進会議の開催が実施できていないが、資料の配布は行い施設の運営状況を報告している。	書面報告で、事業所の実情理解を図っている。市担当者には、困った時には相談を持ち掛け、指示を受けている。介護保険の更新時や、変更申請時に出向き、良好な関係作りに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関の施錠は行っていない。多動的で徘徊傾向強い方には付き添い見守りを基本として行っている。	普段何気なく行っているケアや言葉かけを振り返っている。自分に置き換え、不適切ケアに当たるかどうか、職員全体で考えている。法人の統括管理者からのミニ研修会もあり、職員一人ひとりが意識をもって防止に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のミーティング開催を行い、不適切ケアと思われる段階で職員と意見交換、虐待防止委員会を開催し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ここ2年ほど外部の研修やホーム内研修にて学習の場を設けられていない状況。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭だけでなく、書面にて説明を行い、同意を得ている。また、できる限り専門用語は、分かりやすい言葉で言い換えて説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会の際に頂いたご意見や要望を申し送りノートで職員へ伝達し、できることから反映させている。	個人記録に家族との細かいやり取りを記入し、職員全体で共有している。爪水虫をきれいに処置して欲しい等のケアに関する具体的な要望もあり、対応している。利用者から「家族に会いたい」との要望があれば、電話で来訪を依頼している。	月1回発行の「うららだより」や、電話で生活の様子を伝えているが、面会が制限される中、さらに伝わる努力をして欲しい。事業所の様子を伝えることで、双方の理解が深まり、より強い信頼関係の構築を期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング開催に行っている。また、統括管理者も必ず出席し、法人格からの伝達事項を伝えてもらうことで、組織の中の一員を自覚できるようにしている	ミーティングでは「変わってきていること、こんなことがあった等の気づき」が活発に発言され、検討されている。職員の提案で避難時の個人用リュックサックが手作りされた。必要最小限の衣類や排泄用品等を入れ、各居室に備えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	基本給の引き上げや残業手当の支給。年次有給休暇の取得を推進している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出張扱いにて外部研修に参加したり、ホーム内にて認知症ケア研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回、法人内のGH会議を開き各々のGHの活動を報告し、情報共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の訴えを否定せず傾聴を行うことで、関係の構築を図っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの種類について分かりやすく説明を行い、サービスを受けることに不安を感じさせないように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームに入居という選択肢以外にも小規模多機能施設の活用、ショートステイ、ケアハウスといったサービスの説明も行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常のお天気のことや時事ニュースなどの会話しながら料理をしたり、洗濯干し、たたみ等家事を一緒に行うことで暮らしの中の介護職員になっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時だけでなく、電話にても日々の様子を家族に伝え、また家族の方（親族・身内に）でも変わりごとがないか確認することもある		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	他家族と面会が重ならないよう制限はあるが、予約制にて近所の友人や親せきと面会ができる。	法人全体としての面会条件はあるが、条件を満たしていれば、1対1で10分程度の面会ができる。利用者から家族に会いたいと言う要望も多く、できるだけ叶えられるように支援している。面会できない時は電話で話してもらうこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や関係性に留意しながらテーブル配置・席配置を考え、穏やかに生活できるよう支援している。利用者との間を取り持つのも職員の仕事と認識できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、節目ごとに電話で連絡させて頂き、新たなご利用の話に発展することもあった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員の一方的な思い込み支援にならぬよう、利用者の普段の様子や言動も把握し、職員間で確認した上で検討しケアを行っている。	利用者と1対1で対応する場面で聞き取ることが多く、特に入浴時間での触れ合いを大切にしている。聞き取った内容を記録に残して職員間で検討し、本人の意向に沿う会話や支援を試みている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートに細かく記載し、新たに分かったことがあれば、追記している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートに細かく記載。変化があれば都度変更		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の訪問・面会の際に、本人の日々の様子を伝え、本人と家族の希望・要望・意見を伺い、施設でのケアについて説明をして計画を作成	6か月毎に見直し作成している。ミーティングでケアカンファレンスを行い、全員で見直し、プランに反映させるようにしている。毎日の記録にプランの実施状況をチェックする項目があり、職員はプランを意識した支援に取り組むことができている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書に基づいた介護記録をするように努力し、次のプランに反映できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	休病にて外部病院受診後、入院となったり救急搬送が必要な時には、急ぎホーム職員で対応し、家族が到着するまで付き添っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染対策にて、地域資源の活用が出来なくなった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療が受けられ、体調不良時には随時電話相談ができ、臨時住診も可能。	週1回の訪問看護もあり、24時間の医療連携体制が整っている。困難な皮膚疾患等で、専門医の受診を勧めることもあり、家族に対応を依頼している。家族の都合が悪い時は職員が付き添うこともあり、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間随時利用者様の体調面の相談が可能。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	契約クリニックが、地域医療連携室を活用しているため、円滑な入退院支援ができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要があれば、主治医と相談の上、家族面談を行っている。	重要事項説明書に「重度化した場合における看取り指針」が分かり易く順を追って具体的に書いてある。入居時に説明し、家族の理解と安心を得ている。本人や家族の意向に沿って、終末期のケアに取り組むこともできる。また家族は、法人内の医療機関や施設に入院、入居も選択できる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の中に知識や実践力のばらつきが見られるので、勉強会を開き、経験豊かな職員にレクチャーしてもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練や避難訓練に合わせ、図上訓練も行っている。洪水警報時、避難勧告時にどこに逃げるかを職員へ周知している。	4月は災害時避難訓練を行った。10月に火災想定での避難訓練を行う予定にしている。西日本豪雨時に避難した経験があり、早めの避難を心がけている。「グループホームうらら洪水災害避難判断基準」を運営推進会議議事録に添付し、地域協働を図った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	おおむねできているが、今後も不適切にならぬよう注意していく	排泄や入浴介助時は特に気を付けている。申し送りも小声で行い、チェック表で使用する記号を活用する等、あからさまな表現を避けている。脱衣所にカーテンをかける等、目隠しにも配慮している。気になる言葉かけには、職員同士で注意を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の会話、理解度の調子に合わせて、聞き取りをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	そのように努力している。集団レク参加については、本人に聞いて本人が参加するしないを決定している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備や着替えの際には、タンス内から2～3点の服を出し、どれにするか自己決定を促している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒にキッチンに立ち、会話を楽しみながら準備・片付けをすることが、毎日ある。	管理栄養士の献立を参考に、手作りの家庭料理を提供している。リクエストのメニューで食事を作ることで、利用者の喜びに繋げている。ミャンマー人職員によるミャンマー料理の提供も計画しており、テイクアウトを利用し変化をつけることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事量の記録を行い、利用者1人1人に合わせて量や食事形態を変えている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔状態に変化があれば、協力歯科に往診・相談を依頼し、指示の下、適切なケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎月のミーティングにて、1人1人のケアを見直し、必要があればモニタリングを行い、評価している。	布パンツ、パット使用、二人介助とそれぞれ状況は違うが、一人ひとりの能力や習慣に合わせて、職員間で情報を共有しながら個別の支援をしている。尊厳保持、プライバシーの確保は基本として守られ、排泄用品の検討も随時行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量が適切か、食事量が減っていないか確認しながら、必要に応じて医師の指示・処方を受けてケアしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	大まかには曜日や時間決めを行っているが、個別に要望や必要時には、可能な範囲で対応。	週2回の入浴を目安にしているが、気分や体調がすぐれない時は、時間をずらしたり、翌日に変更したりして無理なく入浴できるように支援している。皮膚状態に問題があれば、職員間で検討し、石鹸やシャンプー使用を控える等、原因を探っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調変化や気分の変化に合わせて行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に職員2人で配薬のダブルチェックを行い、変化があれば記録し、主治医・訪問看護師へ報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別の好みを把握し、職員は好みに合った支援をしようと努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を把握しつつも、コロナ感染予防の為、支援ができていない。	コロナ禍で買い物や、外食等の外出ができなくなった。近隣の散歩や、周辺のドライブで戸外に出る機会を作り、気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	平素は、紛失等のトラブルを避けるため所有されていないが、買い物支援の際にはご自身で支払いができるよう支援している。コロナ感染対策が始まってからは支援が滞っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話を利用して家族と連絡が取れるよう、支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先には、季節の花が植えてある。また、季節を感じられるような、壁画の作品を玄関や廊下の壁に展示している	温度・湿度・換気に気を配り、快適に過ごせる空間作りに努めている。毎朝の掃除は、利用者もモップかけ等で参加している。畳コーナーがあり、上がって寛いだり、ベンチのように腰かけたりし、思い思いに過ごしてもらっている。足浴の場所としても活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	たたみコーナーを活用し、部屋でベッドに入って休むほどではないが、ホールわきに設置してあるたたみで休んだり、気の合う利用者同士でテーブルが囲めるよう、柔軟に対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持参して過ごされている方もおられる。	テレビ、ラジオカセットレコーダー、ダンス等、使い慣れた物を持ち込んでいる。編み物に使う毛糸やペットの猫の写真等、本人が好きな物や、安心する物を持参してもらっている。安全な動線確保を検討し、ベッドの位置を決めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	書籍は取りやすい位置に設置。トイレの場所が分からなくなっても、目の高さに表示してあるので、ホーム内を1周すれば、トイレが分かるようにしている。下足箱の位置も個々の体形や事情に合わせて決めている		